

力キ生育情報

第 8 報
千葉県農林水産部
令和7年12月号

本年の収穫盛期は概ね平年並みで、果実の大きさは平年より小さく、糖度は高い傾向でした。落葉後から発芽前までに整枝・せん定を実施しましょう。うどんこ病は発芽前の3月中下旬、カイガラムシ類は休眠期の12～2月がそれぞれ防除適期となります。

1 1年間の気象

令和6年12月から令和7年11月の月別気象を表1に示した。月平均気温は2月と11月を除いて平年より高かった。1年間の平均気温は17.4°Cで、平年より1.2°C高く、前年より0.7°C低かった。

降水量は3～5月を除いて平年より少なかった。1年間の合計は1,279mmで、平年の69%、前年の62%であった。

日照時間は4月、5月、10月以外は平年より多かった。1年間の合計は2,280時間で、平年の115%、前年の105%であった。

表1 令和6年12月～令和7年11月の気象

年 月	気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
R 6 12	9.6	8.9	10.4	5	91	46	223	164	198
R 7 1	7.3	6.4	8.6	48	86	29	216	177	197
2	6.9	7.0	9.1	31	82	106	211	155	133
3	11.5	10.1	10.5	245	161	258	182	165	185
4	15.4	14.5	16.6	178	156	184	174	179	133
5	18.9	18.5	19.4	205	153	228	120	185	179
6	24.0	21.5	22.6	113	212	356	190	135	190
7	27.6	25.2	27.9	52	179	103	264	179	252
8	28.4	26.7	28.7	29	103	238	272	216	237
9	26.3	23.7	26.7	135	222	141	200	153	196
10	19.4	18.6	21.3	212	258	224	78	137	128
11	13.5	13.7	15.0	29	144	140	150	147	139
平均/計	17.4	16.2	18.1	1,279	1,846	2,053	2,280	1,991	2,167

数値：アメダス 館山観測所

2 12～5月の作業

1) 整枝・せん定

整枝、せん定は落葉後から発芽前までに、凍害の危険性のある場所は厳寒期を過ぎてから実施する。結果母枝の充実度を確認したうえで、結果過多にならないように留意し、間引きせん定を中心に行い、切返しせん定による枝の更新も行う。特に不必要的徒長枝及び軟弱枝はすべて取り除き、病害虫多発園では風通しが良くなるように密集した部位を適宜間引く。

2) 摘 蕉

開花10日前～開花直前（5月上中旬頃）に行う。摘芭は樹体の消耗を抑え、大果及び高品質果生産と隔年結果防止の効果がある。着芭量が少ない場合は、小花、奇形花は落とすが、着芭量を確認しながら過度に行わないようにする。着芭量が多い場合は、充実した花芭を1結果枝に1芭残すように摘芭する。

3) 病害虫防除

落葉の処分と粗皮削りは、病害虫の越冬源を絶ち防除効果が高い。うどんこ病、黒星病を対象とした石灰硫黄合剤の散布は、発芽前の3月中下旬が、カイガラムシ類の多い園では、休眠期である12～2月のマシン油乳剤の散布がそれぞれ防除適期である。また、展葉期の4月下旬は、うどんこ病、ハマキムシ類、フジコナカイガラムシ及びチャノキイロアザミウマの防除適期である。防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

3 本年度産果実の特徴

春の気温が平年より高かったため、発芽期、開花期は平年より早い傾向だった。梅雨明けが6月28日と平年より20日以上早く、その後も高温多照、少雨傾向が9月まで続いた。高温による着色時期の遅延はみられなかった。果実の大きさは平年より小さくなかった。生理落果は夏期の少雨の影響で平年より多く、日焼け果、炭疽病の被害果と汚損果の発生は平年より少ない傾向であった。

1) 収穫期

暖地園芸研究所（以下暖地園研）における収穫期を表2に示した。収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「西村早生」が9月11日、18日、30日、「松本早生富有」が10月15日、25日、11月10日、「富有」が10月21日、11月3日、21日であった。始期は平年より「西村早生」が5日早く、「松本早生富有」は6日、「富有」が1日遅かった。盛期は平年より「西村早生」が8日、「富有」が2日早く、「松本早生富有」は3日遅かった。終期は平年より「西村早生」が6日早く、「松本早生富有」は4日、「富有」が6日遅かった。

表2 収穫期（月/日）（暖地園芸研究所）

半旬	収穫始期			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	9/11	9/16	9/8	9/18	9/26	9/15	9/30	10/6	10/6
松本早生富有	10/15	10/9	10/8	10/25	10/22	11/5	11/10	11/6	11/26
富有	10/21	10/20	10/17	11/3	11/5	11/6	11/21	11/15	11/21

平年：1997～2024年の平均

但し、2019年は9月の台風により果実が落果したため、調査できず欠損値

2) 果実の品質

収穫果実の1果平均重、糖度、へたすき及び汚損果程度を表3に示した。1果平均重は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ173g、207g、「富有」が239gで、それぞれ平年の89%、90%、95%、前年の92%、90%、91%であった。糖度は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ15.3、15.8、「富有」が16.3で、「西村早生」は平年より0.8、前年より1.2高く、「松本早生富有」は平年より0.1高く、前年より0.4低く、「富有」は平年より1.0、前年より2.3高かった。暖地園研のへたすきの発生はいずれの品種も微で共に前年と同じか少なかった。汚損果程度は「西村早生」が微、「松本早生富有」と「富有」は少で何れも前年より少なかった。

表3 果実の大きさ及び品質

品種	調査地	1果平均重(g)			糖度(Brix)			へたすき		汚損果程度	
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	前年	本年	前年
西村早生	いすみ市	162	194	176	14.3	14.3	13.7	—	—	—	—
	暖地園研	183	195	200	16.3	14.7	14.4	微	微	微	多
	平均	173	195	188	15.3	14.5	14.1	—	—	—	—
松本早生富有	市原市	179	210	192	16.1	16.2	17.8	—	—	—	—
	暖地園研	234	248	265	15.4	15.1	14.6	微	小	少	中
	平均	207	229	229	15.8	15.7	16.2	—	—	—	—
富有	暖地園研	239	252	263	16.3	15.3	14.0	微	微	少	中

へたすき：無、微、小、大、汚損果程度：無、少、中、多

平年：暖地園研は1990年～2024年の平均、いすみ市は1998年～2024年、市原市は1999年～2024年の平均

但し、2019年は9月の台風により果実が落果したため、調査できず欠損値

3) 病害虫の発生

暖地園研では、炭疽病の発生が平年と同程度にみられ、樹上軟化する果実がみられた。果樹カメムシ類の発生による被害果も多かった。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。